

注目

今月は平野 勲さんが登場します。
平野さんは、高齢化、過疎化社会を迎えた今、地域での仲間づくりとこれからの地域活動について提言されます。

高齢化・過疎化社会を迎えて

今年も各地で「敬老会」が開催され、長寿をお祝いしました。

総務省の調査によると、65才以上の総人口に占める高齢者人口は、2600万人と20%を越え、そのうち75才以上は、1200万人で、9.5%との発表でした。

笠岡市では、75才以上の人口が8千人余りと14%であり、特に高齢化・過疎化の進む地域（島地部を含む）では、若年層の人口流出が大きく、25%超と住民の4人に1人が75才以上の高齢者という地域が

あります。加えて、若い家族が出て行くため、老人夫婦や独居老人の家が多く見られます。

今年の敬老会は、77才以上の人達に案内したと聞きましたが、高齢化が進むにつれて増え続ける、社会福祉関係費用の市財政に与える影響が、ここにも現れています。

老人医療費と介護費用の増加

高齢化とともに増えるのが、老人医療費と介護費用です。年をとると医者通いも多く

なり、薬代やリハビリ費用など医療費も増加し、自己負担の増加も避けられません。各種介護施設も各所に開設され、介護費用も急増し、自己負担とともに保険料が大幅アップとなりました。



阪神大震災を経験して

最近、近くで老人の孤独死がありました。11年前の阪神大震災の時、私は西宮に住んでいたため、地震の恐ろしさを経験しました。軒並み家が全半壊し、急ぎよ、野球場、公園などに仮設住宅が建設され、学校、公民館などの避難所で生活をしている人達に家が貸与されました。

しかし、復興が進むに従い、若い人達は出て行き、また、子どもたちの住む町へ移り、ま

ばらになった住宅地に残ったのは、行き場のない老人達という状況でした。ここで、老人の孤独死があちこちの仮設住宅で起きたのです。

市町村の福祉担当者や民生委員、ボランティアの定期訪問で、事故を防ぐ方策がとられました。それだけでは全てが解決できる問題ではありません。

自分の住む町について考えよう

自分の住む町の十年後を考えたことがありますか。高齢化、過疎化が進み空き家と老人の目立つ地域は、震災時の仮設住宅と同じ環境になる恐れがあります。

仲間づくりと声かけ運動を

高齢者にもいろいろな人がおられます。自分のこと、地域のことに積極的に行動力の

ある人、そうでない人、みなさんそれぞれの考えで生活されているようですが、環境がこれだけ変わってきている今、もう一度生活態度を考え直しませんか。

「遠くの親類より近くの他人」ということわざがあります。老人会、自治会、公民館、福祉協議会などの会合や小学生との交流などに積極的に出かけて、一緒に動き話の出来る仲間をつくり、また、病気などで外出のままならない人達には、絶えず声をかけて意志の疎通をはかり、孤独にならないよう日頃から心がけたいものです。



このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。

お便り：〒七四一八六〇一 笠岡市中央町一―
企画政策課モニター係

☎02110 FAX02288